

野菜の成長が元気のもと

親元就農 5年目



相内 智明さん (五戸町)

就農のきっかけ

高校卒業後、五戸町の民間企業（建設・林業関係）に就職し、24年間一度も転職することなく勤めてきましたが、親が病気になったことをきっかけに、実家の将来と親が守り営み続けてきた農地を廃れさせたくないという気持ちが沸き上がりました。

家族のことを思い、随分悩みましたが、会社勤めをしながら農業と両立することは難しいと考え、今後は農業一本で生計を立てていこうと決意し、就農を決断しました。

親元就農で農業次世代人材投資事業を活用する場合「新規作物の導入」が要件となっているため、親とは違う作物であるにんにく、丸イモを中心に経営を進めていこうと計画し栽培を始めました。

〇就農に当たっての課題

大切な家族を養っていくため、作物の選定には慎重を期しましたが、最後は、周辺ににんにく農家が多く学びの場や環境が整っている点、県内有数の産地、五戸町の丸イモであれば、農協に相談し易いという点から栽培する作物を決定しました。

〇活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業（開始型）



【出荷前のにんにく】まごころ込めて栽培しています！

【収穫後の作業の様子】乾燥させたにんにくの根切りと上皮むきをひとつひとつ丁寧に手作業で行っています。



自己紹介

- 〇氏名・・・相内 智明さん（48歳）
- 〇出身地・・・青森県五戸町
- 〇経営の概要・・・個人経営
 - ・経営面積・・・65a
(にんにく55a、丸イモ10a)
 - ・作付品目・・・にんにく、丸イモ
 - ・販売先・・・にんにく（民間業者とJAに出荷）
丸イモ（全量JA出荷）

就農してからの課題や想い

〇取り組み

就農1年目は、主品目ににんにくの種作りのため5aの作付けから開始し、毎年徐々に作付面積を広げ、今年は55aまで拡大しています。就農2、3年目には、ピーマン作りに挑戦しましたが収穫時期とにんにくの土作りの時期が重なり、並行した作業に追われて大変でした。その経験から、4年目からは計画的な作業ができるように、にんにくと丸イモだけに専念する方針に切り替えました。

にんにくの種子は1品種に限定し、小さい種子は作付けしないことを徹底することが、良品質のにんにくの収穫に繋がっています。

将来的に、にんにくは1haに規模拡大したいと考えています。

〇就農してからの課題

面積拡大した今の規模であれば、植付け・収穫時期に最低でも5名の労働力が必要となります。周辺もにんにく農家であるため、繁忙期ともなれば、地域内での労働力の奪い合いとなり、人材の確保に苦労しています。

また、就農してすぐはにんにくの収穫機を所有しておらず、借りるにしても、周りの農家の収穫が終わった後となるため、本当に使いたいときに使えない不便さがありました。

〇課題の解決方法

労働力の確保については、将来的に規模拡大する前にJAの無料職業相談窓口にご相談する予定です。

収穫機は中古品を購入し、計画的に収穫作業が行えるように備えました。購入費用は掛かりましたが、人力で収穫したときに、手にマメができるなどの痛い思いをしたため、今は購入して良かったと思います。

就農を考えている方へのメッセージ

にんにくの栽培方法は、地域の農家によっても違いがあるため、先輩農家とコミュニケーションをとりながら、自分の栽培技術に落とし込むことが大事だと思っています。